

奥

白

工

石

山

山頂には一等三角点、高知県には16点のうちの一つ。
選定 明治25年5月4日
山名は仁尾ヶ内山
本山町鳴



奥工石山は本山町と大豊町の境に位置する。
高知市にも工石山があるが、奥工石山や立川工石と呼ばれている。



奥工石山
1516m

「竜王山」
白山神社「立川工石」
ユルギ岩

白山神社登山口

ユルギ岩
岩山から見る大展望!! 大迫力!!

こうれんせき
紅簾石
紅色の綺麗な石。
地質的に希少な山頂付近に大露頭している。立入禁止。

名前しか知らない山に登る。
その日から自分の山になる。



春5月3日「ツツジ」あはらし

傾斜が急

美しい天狗の

林道分岐

林道の広場

ほぼ平坦な道

大岩を巻く

1292m

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

大ヒバ

藩政時代、伐採された木材は吉野川を流して工場の燃料に使われていたが、流木村の流木や堤防、田畑の損傷が深刻化し、流木は中止された。以降、本山の中山から龍王山に引き上げ、高知、朝倉川を流して高知に出る方法がとられた。

汗見川の清流は青く澄んで、車窓から魚が見える。



日曇山〜奥工石の稜線はさわやかな5月の風に吹かれ、何層も花を咲かせ、ツツジやアザミ、シロツグなどに見惚れてしまふ。
そうだ!! 答えは風の中だ!!

ヒキ白苔

シロツグの枝を使っていると中風にならないと伝わる

1km 標識

あられた林業経営方式であり、環境型伐採方式である。工佐藩重臣の小山久が考案し、事業化した。

伐採機具の技術は伊勢、紀伊、和泉の私人下屋を呼び寄せ、土佐の林業家、重臣の育成を促した。『金太郎』といふ足軽が主に従った。

冬瀬登山口

奥工石山と続く稜線

ブナとチの森

白25回根点

1349m

少い坂

冬の瀬
本山町署冬の瀬製品事業所跡のゲートがある。ここから林道を約7kmで白髪山登山口。

奥白髪林道



吉野川と流域は白髪神社が古くから信仰されてきた。

YAMAPデータ 2021.5.8
冬の瀬登山口-白髪山-奥工石山-冬の瀬登山口
8時間17分
12.4km

白髪山
「白く光る岩」に由来している。以前は白い岩を意味する「白山」の文字を使っていた。奥白髪に猿田彦神(白髪の老翁)を白山の山霊として奉って「白山」を「白髪」に改めたといわれている。

岩の間からほとほと水の流れていてよく樹間に響く

白髪山と白髪神社の個人群(宇術系保護林)
大正4年設定 2083ha
ヒノキ中心の天然性林

林床を彩るシロツグに圧倒される。本教のタビは四国といわれシロツグは白髪山の代名詞である。

風倒ヒキタタ

八反路分岐

山頂からは南方が開け、展望が広がる。白苔林群も見え。

工石山縦走路
竜王峠まで40km

根上りヒキタタ

白髪山

1470m

南面には強風などの厳しい自然環境により枯れたヒノキの白苔林

藩政時代、白髪山のヒノキは江戸城や馬場府城などの普請の材約1万2千本が献上され、月謝光を占める。その後、1621年には財政難であった土佐藩は白髪山のヒノキを伐採して一時的に藩財政を立て直した。良質のヒノキは市場を独占し、他国の材を寄せつけなかった。木材市場跡は今も白髪橋という地名が残る。(大豊市西區北堀江)

山頂からは吉野川、早明浦、橋本、三ヶ瀬、石鎚方面まで展望が広がる。いつでも立ち去りがたい。

白髪山は四国の中心にあることを感じる。

